

2017 年度（平成 29 年）事業報告書

2018. 03. 17

特定非営利活動法人

NAGOYA おもいやり実行委員会

1 事業実施について

私たちは定款第 3 条に定めた、経済的な事情で安心して教育を受けられない子どもたちを支援するため、多くの市民が思いやりの心を形に出来るようチャリティに関わる事業を、昨年に続き本年も実施しました。

年度内における活動計算書並びに会計諸表は別紙のとおりです。

収益金は給付型育英金の基金にいたします。

実施事業は、定款第 5 条第 1 号の子ども支援事業として

『 NAGOYA おもいやりサンタウオーク&ジャズフェス』 大会を

久屋大通公園久家広場を中心会場にして実施しました。

2 給付型育英金の交付目標について

当会の目的である給付型育英金の発給は 2019 年（平成 31 年 4 月）からの実施を目指しています。当初は高校進学を目指す子どもを対象にしたいと考えています。

3 事業の実施に関する事項

I 特定非営利活動に係る事業

- ① 子ども就学支援事業に向けたチャリティ事業を開催しました。
- ② 名称は「第 2 回 NAGOYA おもいやりサンタウオーク&ジャズフェス」としました。
- ③ 事業内容

事業は、一般市民を対象に有料で開催しました。

事業は、当会の目的をアピールするため参加者全員にサンタ服を着用して頂きました。

サンタ服は東広島市に本社を置く大創産業株式会社のご寄贈によりました。

事業の詳細は以下のとおりです。

開催場所；

1. 集合場所は久屋大通公園久屋広場として、スタート・ゴール地とも同広場とし、ウオークコースは、およそ 4.2 km の広小路通りを西進し

伏見交差点にて北側に渡り広小路通を東に向かう（右側）往復コースとし「広小路コース」と名付けました。

2. コース設定は当初「広小路コース」と「白川コース」の二コースを企画していましたが、参加者が予定より少ないため、「広小路コース」のみに変更しました。
3. 同日開催で、アマチュアバンドによる「ジャズフェスティバル」をアトラクションとして試験的に開催しました。今後に向けた実験的開催でしたが市民の間からは大変好評でした。

開催日時；平成29年12月2日（土曜日）午前10時集合午後16時解散

参加総数：317名

（一般市民140名、ジャズプレーヤー96名、スタッフ及びボランティア81名）

- ④ 参加費 大人2,000円、大学生1,000円、高・中・小学生500円
- ⑤ 従事者の内訳
ジャズプレーヤー/96名（中学生・高校生・大学生・一般および指導者）
ボランティア / 51名（一般・大学生・高校生）
会 員 / 30名
- ⑥ 受益対象者
一 般 市 民 / 140名
- ⑦ ボランティアとしての協力者は、昨年に続き東海学園大学と新たに愛知淑徳大学、自由参加の愛知学院大学及び連合愛知名古屋地域連絡協議会の方々からご協力いただきました。
- ⑧ 試験的な事業
 - ① 子ども支援事業の促進と当団体の活動PRを図る事業の試みとしてアマチュアバンドによるジャズとカントリークラブの演奏会を開催しました。
 - ② 事業は名古屋の「街おこし」につながるフェスティバルにできないかという側面も意図しました。
 - ③ 「ジャズフェス」は大成功でした。演奏会場には、音楽に呼び寄せられて来たと答えた市民が多数あり、募金箱にお金を投じる方もいました。また、カントリークラブ演奏時にはダンスをして場面を盛り上げていただいた女性チームもあり、雰囲気醸成にご協力いただいたことも予定外の出来事でした。

- ④ ジャズプレーヤーは中学生から一般まですべてノーギャラのボランティア参加で有り難く敬意を表します。
- ⑤ 次年度(平成30年度)から本格的実施に向けて実施したいと考えます。

4 事業の反省および改善すべき事項および打開策

◎ 反省点

(1) 動員の失敗

動員を確実にするため、かねてのターゲットである「連合愛知名古屋地域連絡協議会」にアプローチしました。例えて言うならば門をくぐって中に入ったのにいくつもある部屋を訪れていないので成果は空回りしました。状況判断の失敗です。

(2) 執行部の脆弱

言うまでもなく、教育資金を給付するということはスパンの長い支援策です。一人の進学希望の望みをかなえることはその子どもが卒業時までしっかりと支援しなければなりません。当会の執行責任者も日本の平均健康寿命を上回っている現状を考えると、この体制で大丈夫かと危惧せざるを得ません。

(3) 後継者問題は喫緊の課題です。

◎ 打開策

育英資金の調達方法にも熟慮を重ね、理事会で一定の方針を確認しました。イベントは当会の活動を市民に告知する手段と位置付けています。イベントに要する費用と市民から参加費や寄付金をいただくお金とは分離しなければなりません。参加費や寄付金がイベントの開催費用になってはならないと考えます。

本年度からイベントへの費用だと明示してスポンサー探しを行います。

◎ 新たな挑戦

- ① 商品開発による育英金の調達
- ② 商品の販売先案

◎ 今後の運営について